

## TIA連携大学院サマー・オープン・フェスティバル2019 Summer Lecture 2019 for Nanoscience/Nanotechnology



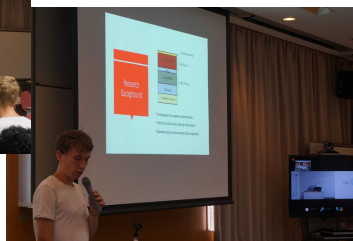
末益 崇 教授  
 にお話を伺いました

末益 崇 教授  
 筑波大学数理物質系

7月後半から8月上旬にかけて(7/23~8/5)、Summer Lectureを11日間にわたって開講しました。昨年度と同様海外において第一線で活躍されている4名の先生をお招きし、筑波大学で1講義と大阪大学で2講義を、リアルタイム遠隔講義システムを活用して実施しました。筑波大学の講義は2名の先生によって行われました。

Summer Lecture はこれまで筑波大学で実施してきたナノテク拠点産学独連携人材育成プログラム(オナーズプログラム)の主要な活動の一つとして実施されてきましたが、2016年度より講義の内容をナノサイエンス・ナノテクノロジー分野に拡大し、筑波大学数理物質科学研究科と大阪大学ナノサイエンスデザイン教育研究センターとの共同開催で実施しています。今年度の講義のテーマは、「透過型電子顕微鏡の基礎と材料科学への応用」、「量子化学の基礎と応用」、「半導体物理と工学、ドーピング、欠陥、光学特性」と多岐にわたる内容でした。

### 阪大受講生によるプレゼン



筑波大受講生によるプレゼン

講義と質疑は英語で行われ、海外講師による厳正な成績評価のうえ、正規履修の合格者は筑波大学大学院における単位(各科目1単位)として認定されます。また正規履修生に加えて聴講目的のみの学部・大学院生、教員等にも講義を開放しました。3講義合計で40名の受講生に、著名教授による大学院講義を体験してもらいました。すべての講義の参加者は10名を超え、盛況でした。

### 国際色豊かなメンバーとともに海外大の講義を体験



講義内容はビデオ収録されており、後日ネットワーク経由でビデオ視聴が可能としました。そのため都合により欠席した場合や、講義の内容をもう一度復習したい場合は、後日、講義の様子を確認できます。遠隔システムではリアルタイムでの遠隔質疑も行うことができ、また、Emailを介して講師と学生間で意見交換も盛んに行われました。

今年は、サマーレクチャー直前で、予定していた講師が急に来日できなくなるなど、トラブルがありましたが、大阪大学側の参加者も含めた日程調整で何とか無事にやり遂げられてホッとしました。

最後に、本活動を支援して頂いた教員を始め、技術職員の皆様、TIA推進室の皆様にご心からお礼申し上げます。

期間	2019年7月23日(火)~8月5日(月) ※7/28、8/3、8/4を除く11日間
会場	筑波大学 総合研究棟B0110室、大阪大学 吹田キャンパス、豊中キャンパス
主催	筑波大学大学院数理物質科学研究科、大阪大学ナノサイエンスデザイン 教育センター
構成	3講義、各8コマ(+1コマ最終試験の講義あり)
参加者数	40名(大学院生40名) ※3講義合計

TIA連携大学院 News Letterのバックナンバーは、ウェブサイトでご覧になれます。 <https://tia-edu.jp>



●編集・発行・連絡先:  
 国立大学法人 筑波大学 TIA推進室 tia-edu@un.tsukuba.ac.jp  
 〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1